

コミュニティ基幹施設の普遍的施設機能と生成機能

－君津市中央公民館の竣工から滅失までの事例分析－

日大生産工(院) ○多田 豊 日大生産工 浅野 平八

(元)君津市中央公民館副館長 新井 孝夫 君津市中央公民館館長 宮崎 攻

1. はじめに

乱立する市町村立公共地域施設の再編成、改築にあたりコミュニティ基幹施設ⁱを発見し、計画時に想定しなかった使い方（生成機能ⁱⁱ）を明らかにする建築計画が必要である。それは、コミュニティ基幹施設の建築設計に際して全国的・平均的な施設の使い方（普遍的施設機能）のみを参照にすることがクレームの誘因になっているためである。生成機能は当該施設固有の機能である場合が多く、過去を遡り生成機能を見出すことは建築計画学の原点であると考ええる。

研究対象にするコミュニティ基幹施設として君津市君津中央公民館（以下、中央公民館）を選定した。次の観点から、中央公民館の生成機能を把握し、その意味を読み解き、施設計画学の基礎資料を得ることを目的にする。

著者らの先行研究として、君津市の公民館の配置計画である「独立館並立方式」が、他自治体の「公共施設の再編成」に応用できるという萌芽的な研究成果がある^{文1)}。この研究の次段階として単体の施設に着目し生成機能を把握する。中央公民館は1964年に竣工され、本年11月に滅失ⁱⁱⁱされるまで44年間に渡り、君津市中央地区^{iv}の住民の生活の近代化、新旧住民の婦人の集い、芸術文

化サークル等様々な市民活動の拠点になってきた^{文2)～4)}。その教育実践が社会教育学の分野において評価され近年注目されている^{文5)}。

調査は次の過程で実施した。まず、新井^{v)}、宮崎が中央公民館の改修の過程を公民館台帳、個人的に保管する関係資料から抽出し、ひとつひとつの改修事業の理由を整理した。その後、多田、浅野が改修箇所を図面及び目視確認を行い、事実かどうかを同定した。その上で、これらから読み取れる生成機能について議論を重ね整理をした。

2. 貸し間機能

年表のa, c, d, e, i, j, tより、中央公民館には「貸し間機能」があることがわかった。「貸し間機能」とは他の公共機関事務局の建築物の新設、改修等に際して、空間を提供する機能である。年表のdより常備消防の設置に伴い、消防署が建設されるまで中央公民館にて24時間体制での勤務、宿泊が行われたことが分かった。中央公民館に調理室、和室、浴室があったために可能であった。また、年表のeでは合併特例での議員数の増加に対応した議場として、合併町村内で中央公民館の講堂しか議場になる場所がなかったことが分かった。この他にも年表のiでは、福祉事務所に貸

Universal and Generative Functions of Community Centers.

－ A case study on the KIMITSU-TYUOU Kominkan in Kimistu City. －

Yutaka TADA, Heihachi ASANO, Takao MIYAZAKI and Isamu MIYAZAKI.

番号	年度	箇所	種別	内容	理由
a	1967	講習室	用途変更	教育委員会事務局として使用	教育委員会事務局のうち学校部門と社会教育・中央公民館部門が分離したため。(講習室を教育委員会事務局とし、中央公民館事務局には社会教育・中央公民館職員のみになる)
	1968	屋上	新規	チャイム用スピーカー	君津ライオンズクラブの寄付による。
b	1969	屋上	改修	パラペット全面巻き込み	パラペットの剥離・コンクリート片の落下のため。当時はRC造は永久建築と呼ばれており、永久建築が壊れたことに驚きを感じた。
c	1969	講習室	用途	講習室に戻す	仮庁舎建設に伴い教委事務局移転したため
d	1969	講習室	用途	消防職員詰所として使用	君津町常備消防設置に伴い、24時間体制の勤務、宿泊、生活全般を中央公民館施設を使って行う。
e	1970	講堂	用途／改修	議会場／暖房設備	町村合併の特例により、議員任1年期延長したため議員数が100名を越す議会となり、議場の会場になる施設は中央中央公民館以外になかったため。
	1972	全館	新規	冷暖房設備設置、現機械室	
g	1973	事務室／ロビー	増築		中央公民館の職員増加に対応するため。また、ロビー空間で住民が溜るためには、2つ以上のテーブルの島が必要だと考えたため。
h	1973	講堂	改修	舞台を木製床張りに変更、舞台の袖、ソノラインスピーカーの設置	舞台がコンクリートPタイル張りであったため、使用上不便があった
	1974	屋上	新規	スピーカー、公害観測機器、通信塔等の設置	
	1974	屋上	改修	シート防水実施	ただし、その後台風によるシート防水全面剥離に伴う補修工事を2回実施。
i	1975	講堂	用途	教育委員会事務局、福祉事務所として使用	市庁舎建設に伴い、役所仮庁舎になったため
j	1975	講習室	用途	他の行政委員会事務局として使用	市庁舎建設に伴い、役所仮庁舎になったため
k	1975	機械室	改修	有線放送所として使用(宿泊体制の交換業務実施)	
l	1983	中庭／図書室	改修	中庭を撤去し、2階にあった図書室をおろす。元の図書室は研修室とする。	図書館活動の活発化を目指す。土足で本を借りることができるようにしたため
m	1983	玄関	改修	玄関前に庇を出し、玄関を自動ドアに改修	バリアフリーの概念が普及しはじめた頃であり、先に建設された市役所は自動ドアになっており、中央公民館の利用者は荷物等を持っている人が多く意識をするようになった。また公民館はブラリ来館して入れることが重要だと考えた。
n	1983	講堂裏	増築	舞台裏通路及び控室の設置	演劇、舞踊、音楽発表等の活動が飛躍的に盛んになったが、これまでは廊下等で着替えており、控室の設置要望が高まったため。
o	1983	講堂	改修	舞台の照明・放送設備の改善、舞台せり出し設置、手引きの幕及び舞台すそを設置	子どもがピアノを習うことが一般的になりピアノの発表会が出来る舞台が求められたため。全国的に「おやこ劇場」活動が盛んになり、舞台の拡大が要求されたため
p	1984	調理室	改修	温水の供給、流し場、通用口の設置、ダムウエーダの廃止。	月曜から金曜日までほぼ連日料理サークルが利用し文化祭、子ども会育成連合会、体育協会等の行事に際してパンケトルームの役割をになっており、設備的に対応する必要が生じた。まちづくりの拠点施設になるためには、市民グループが調理し、食事や飲酒を職員とともにする必要があると考え、配膳室と兼ねるために給湯設備を設置し、また大人数での調理に対応できるように調理台に設置されたものとは別に流し台を設置し、「大洗い」に対応できるようにした。このことによって、洗い物と包丁を使った調理とを分けることができた。
q	1984	全館	新規	消火栓等消防設備及び非常電源設備の設置。	講堂控え室・通路・物置設置に伴い、床面積が1,000㎡をこえ、都市施設として特定防火対象物となったため。
	1988	全館	改修	冷暖房設備の一元化	空調設備も、老朽化したため
r	1990	2階和室	改修	戸障子全面改修、壁塗り替え、舞台撤去。	
s	1990	ロビー	改修	ロビーを仕切り館長室兼打ち合わせ室(バックオフィス)を設置する。	職員の休憩、事業に招聘した講師の控え室としての利用、また室が予約で一杯の時にサークルがどうしても必要な会議をするときに、会議室として利用させることができるようになるため。
	1990	屋上	改修	シート防水全面改修	
t	2000	図書室	改修	図書室の廃止と、ふれあいルームの設置	隣地に中央図書館が建設されたことを受け、図書室を廃止し、そこをふれあいルームとしてだれもが自由に使うことができる部屋として運用している。本当は図書館とは別に、毎年の公民館でのサークル活動や事業を製本化し、誰もが閲覧できるような図書室として再利用したかった。

表1 中央公民館の改修箇所とその理由

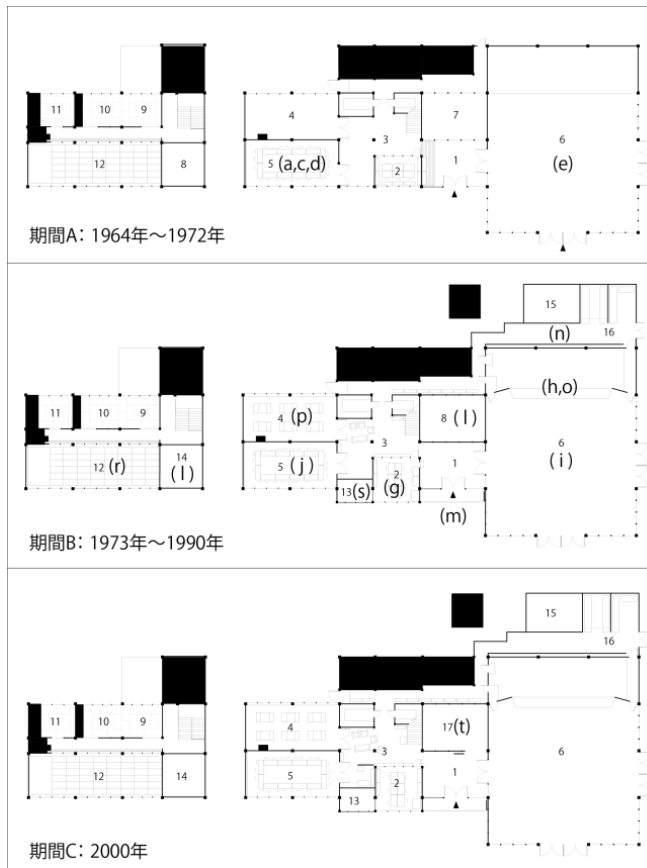


図1 中央公民館の改修箇所

〔凡例〕 aからtは表1に対応。1から16は次に示す部屋名称。黒塗りは設備関係諸室。

1 玄関、2 事務室、3 ロビー、4 調理室、5 講習室、6 講堂、7 中庭、8 図書室、9・10小会議室、11 相談室、12 講座室、13 館長室、14 研修室、15 控室、16 倉庫

し間をしている。

貸し間機能の持つ意味は、様々な行政機関がその地域の必要に応じて入れ替わることをコミュニティの発展に積極的に活かせることである。例えば、中央公民館が議場になった際には関連する講座が行われ、議会の傍聴やロビーでのビデオ放映等によって地方政治を生活に身近なものにすることができた。常備消防や福祉機関と複合し、中央公民館の職員だけでは十分に出来ていなかった地域防災や地域福祉を協力して推進するきっかけになった。このように、コミュニティ基幹施設は、単体の施設で機能を完結しなくても

よく、様々な機関とネットワークし、当該コミュニティとして完結していればよいと考える。

3. 「一粒の麦」機能

年表のh, n, oは演劇・音楽発表等の文化行政の発展と、l, mは図書館行政の発展と関わる。現在の中央公民館の使われ方調査を実施しても、演劇会、音楽会や図書の閲覧といった使われ方をみることができない。それは1989年に市の文化ホールが設置され、また2004年に中央図書館が設置されたため、それまで中央公民館にて活動していたサークル、個人が利用の場を移したためで



図2 竣工時の舞台（1965年）



図4 講堂（舞台）の改修（h）



図5 玄関の改修（m）



図6 調理室の改修（p）

ある。

このようにコミュニティ基幹施設は、演劇、音楽、図書館の他に、美術、体育とある程度何にでも対応できることが求められる。ただし、専門施設ではないため満足には利用できず、利用者が工夫をしながら施設を使いこなしている。君津市は大規模な専門文化施設（図書館、文化ホール、体育館）を建設する前に、コミュニティ基幹施設の地域配置を完結させた。コミュニティ基幹施設にて参考文献2)～4)にある様々な市民活動が生まれた。活動を進める上で専門文化施設を必要とする住民サークルが建設運動をし、市民の建設要望が高まった上で専門文化施設を建設してきた。この過程は、本当に必要な専門文化施設を見極めるために重要な役割を果たしている。

こうした現在はコミュニティ基幹施設に存在しなくても、他の施設の需要を生み出す役割を果たしたことを「一粒の麦」機能とする。建築計画を実施する際に、現在の使われ方をみるだけでは不十分であり、「一粒の麦」機能をみつける視点が必要である。そのために当該施設に係る地域を構造的に理解することが不可欠である。

4. まとめ

本報告では、事実と同定できた中央公民館の改修の過程とその理由を読み解き、中央公民館は地域を良くするために一般的な公民館の機能以外にも積極的に利用されるために改修が行われてきたことが分かった。このような生成機能は、当該地域でのコミュニティ基幹施設の再編成、改修に寄与する施設計画学の基礎資料になるものである。

最後に、特定地域のコミュニティ基幹施設の生成機能をみつけるには、コミュニティ基幹施設に長年にわたり関わったキーパーソン^{vi}をみつけることが

重要であるとの知見を得た。本研究の表1、図1の成果は2名のキーパーソンとの共同研究によるものである。その上で、これまでの生成機能をもとに市民と職員とが知恵を出し合って、新しい施設の施設機能を設定するべきである。

注釈

- i 当該市町村においてコミュニティの拠点として住民に認識されている施設をコミュニティ基幹施設として認識する。
- ii 普遍的施設機能と生成機能の概念の解説は参考文献7, pp.88-95を参照のこと。
- iii 同敷地内に生涯学習総合センター（仮称）が建設されている（2009年3月開館予定）。
- iv 君津中央公民館は全市対象の中央公民館ではなく、君津中央地区を対象にする地区公民館である。
- v 報告者である元副館長は公民館建設後の君津町に初めてとなる社会教育専門職員として雇用され公民館活動の礎を築いてきた。副館長在任時には直接に中央公民館の大規模改修計画を担当した他、教育委員会事務局の職員として長年に渡り中央公民館の整備、改修を担当した。同じく現館長は市役所勤務時には建設部の職員として、中央公民館の改修に携わった。
- vi 施設計画学におけるキーパーソンの重要性は、C.Edith（文9）も指摘するところである。

参考文献

- 1) 多田豊、浅野平八：君津市における公民館の独立館並立方式に関する考察，日本建築学会計画系論文集，2008.5, pp.955-962.
- 2) 長澤成次編：公民館で学ぶ，国土社，1998.4.
- 3) 長澤成次編：公民館で学ぶⅡ，国土社，2003.7.
- 4) 長澤成次編：公民館で学ぶⅡ，国土社，2008.3.
- 5) 手打明敏：公民館事業の社会開発論的考察，日本公民館学会年報第4号，2007，pp.52-64.
- 6) 君津中央公民館：開館20周年記念誌 飛翔，君津中央公民館，1984.12
- 7) 金潤煥：公民館の機能設定に関する方法論的研究，日本大学博士号申請論文，2004.2
- 8) 賀川豊彦：一粒の麦，大日本雄弁会講談社，1931.2
- 9) C.Edith., Programming for Design ;from theory to practice, John Wiley & Sons, Inc., 1999.